

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科
古典探究 理系	必修	2	3	普通科

科目の概要	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動をとおして、国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などをとおした先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
教材名	教科書	「古典探究 古文編」「古典探究 漢文編」(数研出版)		
	副教材	【1年次購入済】「読解を大切にする体系古典文法九訂版」(数研出版) 「核心古文単語 351」(尚文出版) 「新明説漢文」(尚文出版)「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 【3年次に使用】「大学入学共通テスト演習古典四訂版」(いっずな書店)		
担当者	熊谷正志			
学習到達目標	(1) 我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 古典などをとおした先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、言葉をとおして他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
学習方法	・「語彙力」を増やす。 ・「文法のきまり」や「訓読のきまり」を理解する。 ・書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を理解する。			
評価基準と評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	考查課題 など	考查授業中の活動 課題 など	授業中の活動 考查にむけての取り組み 提出物 など
	A	文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の語句や表現などについて十分に理解することができる。	書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈することができる。 文章の構成や展開、表現の特色をとらえ、内容を解釈することができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉をとおして他者や社会に関わろうとしている。
	B	上記Aの項目について概ねできている。	上記Aの項目について概ねできている。	上記Aの項目について概ねできている。
	C	上記Aの項目について、努力を要する。	上記Aの項目について、努力を要する。	上記Aの項目について、努力を要する。

年 間 学 習 計 画

月	章 ・ 単元	学習内容・目標等	時数	備考(テスト・講習等)
4	平家物語「忠度の都落ち」	敬語や音便に留意しながら、読解を深めていく。共通テストや模試等で軍記物語の出題が増えていくので、時代背景等も理解させたい。	8	授業の始めに古文単語小テスト、速読の演習を行う。
5	呂氏春秋「知音」 後漢書「梁上君子」	「知音」の意味確認。内容の的確な把握。二重否定、部分否定、再読文字の理解。	3	
6	前期中間考査		1	学習内容の確認を中心に出題する。
	本事詩「人面桃花」	句法や語句に留意しながら、登場人物の思いを読み取る。 文中の詩の理解を深める。	7	5月下旬からの学習開始も想定。
7	蜻蛉日記「うつろひたる菊」	平安時代の代表的な日記文学の読解を深め、作者と夫兼家とのやりとりを和歌を通じて理解する。	7	
8	史記「伯夷列伝」『首陽山に餓死す』	句法や語句に留意して、史伝を読み進める。司馬遷の人物評や考えを理解する。	5	
	『天道是か非か』	善行と幸福との関係について考えを深めさせる。	2	
9	前期期末考査		1	学習内容の確認を中心に出題する。
10		い い ず な 書 店 問 題 集	20	
11		古文 10 題 漢文 10 題		
12		ベネッセ駿台、全統模試過去問に取り組み、共通テスト対策を行う。	6	模試の過去問は実際の進み具合により、時期等を配慮する。
			計 60	